

表紙のことは

柴谷健造 「冬」



私にとって、「絵」は病気になってから始めた活動です。何がやりたいか、色々探し、試しましたが、私にとっては「絵」が一番です。みんなが褒めてくれるしね（笑）。

（柴谷健造）

柴谷さんが描く「絵」には、不思議な力があります。作業療法室で、柴谷さんの作品を掲示させていただいており（空想の美術館）、多くの患者様やご家族様に「障がいを抱えても、楽しく生きることができる」という勇気や感動を与えてくれています。全国の皆様にも、届きますように。（担当 OT：谷口創介）



今月の作品

本コーナーでは、表紙にご応募いただいた作品の中から毎月1点をご紹介します。



甲斐秀一 「くだもの」

幼いときから絵や漫画を描くことが好きでした。脳出血の後、利き手を右手から左手に変え生活をするようになりました。それでも絵を描くことは続いています。入院中から自然に左手でもスケッチブックに向かう気持ちになりました。周りの皆様の似顔絵、窓から見える景色等を描く日々でした。

退院後はリハビリ関係の病院やデイサービス先でも色々描かせていただきました。現在、リハビリは終了しましたが景色、静物等も想像しながら描いています。どんな状況でも絵が励みになっています。

描いた絵を見てくださることに母と共に心からの喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。

（姉：竹川砂千代）